

やさしいまちのモノ・コト パートナーシップで!

福祉のまちづくりの具体的な企画を実施したり、ものや場所を作った、「パートナーシップ活動部門」の地域活動助成及び設備整備助成の5団体の活動報告をご紹介します。

モビリティマネージャーの養成

NPO 法人移動支援フォーラム

<活動報告>

- モビリティマネージャーという言葉を知ってもらったことで、より多くの地域の方々が移動支援に関わってくださるのではないかと、企画を変更した。研修を2回行い、12月はコミュニティバスなどの手段を使った移動支援の事例、3月は海外の事例についてお話をいただいた。
- モビリティハンドブックを作成して、ケアマネージャーなどに配布した。体の状態に応じて移動サービスを選択できる表を盛り込んだ。

<審査員との質疑応答>

室地委員：例えばハンドブックを使って区内の団体の方々に研修を行うなど、練馬区に成果を活かす方法を考えていただければ。
 中野委員長：当初の企画にあった「当事者の抱えている課題に対して、問い合わせ先を明確にする」という点が重要だったのでは。

回答：今度は利用者向けのハンドブックも作りたい。

仲倉委員：モビリティマネージャーと地域(まち)との関わりがわかりにくい。ケアマネージャーは患者個別対応で、地域との関わりは少ない。地域で活動している身体障害者相談員にはハンドブックが届いていないようだ。練馬区でモビリティマネージャーを増やすなど、練馬区の福祉のまちづくりとの関連を考えると良いのでは。



身近な暮らしの安心・役立ち情報「宅配」プロジェクト

NPO 法人点訳・音声訳集団一歩の会

<活動報告>

- 練馬区消費者だより「ぶりずむ」を音訳化し、テープ版とデジター(CD)版を地域の人に貸し出した。
- 広報活動にも力を入れ、光が丘団地や区の広報誌に掲載した結果、30名弱の方々に利用していただけるようになった。
- これまで視覚障害者だけだったが、光が丘から半径2km位にお住まいの高齢者の方にも配布している。

<審査員との質疑応答>

関委員：ぶりずむを音訳して、反響はどうでしたか?
 回答：特に成年後見制度の特集号は、良かったとの感想が寄せられた。
 千葉委員：地域で手伝っていただける方が増えるように、ボランティアの養成にも力を入れていただきたい。
 回答：定期的に講習会を開催している。今後も心がけていきたい。

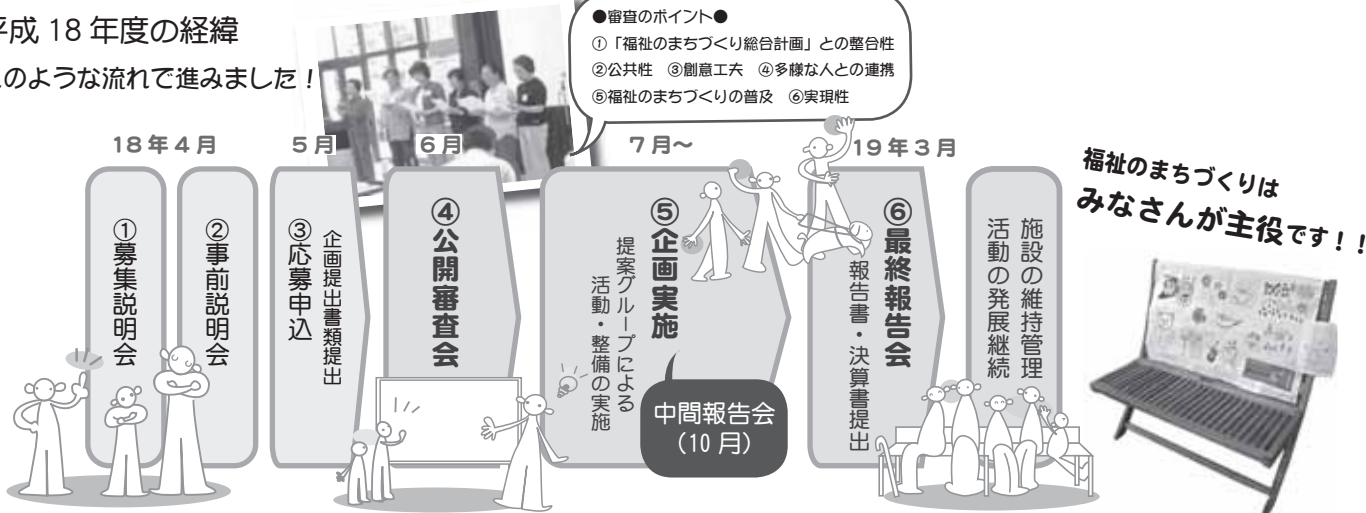
中野委員長：「宅配」の取組成果はどうですか?
 回答：まだ利用者は少ないが広報して広げたい。

饗庭副委員長：「宅配」がうまく展開していくと「地域」への広がりが出るのでは。情報をうまく使って面白い仕掛けができれば。例えば、マップグループが把握したお勤めの商店をテープに吹き込んでPRすると利用者の行動範囲が広がるのでは。
 回答：商店街の情報が入る受信機の活用など、今後色々展開していきたい。



平成18年度の経緯

このような流れで進みました!



いやしと思いやり ベンチと花でまちが公園づくり

練馬地域福祉ハートフルアクターズ

<活動報告>

- 石神井公園および駅前商店街一帯に、誰でも利用できるベンチを18台設置し、地域の方から感謝の言葉を頂いている。今回は民有地だけに置いたが、練馬区にも設置場所について協力をお願いしたい。1台は交通事故に遭い破損したがメーカーに交換してもらった。
- ベンチに花を付けているが、花の水やり等の管理は大変で、商店街の人も忙しいため、一部は造花を考えている。
- 富士見台、大泉学園および上石神井でも置いて欲しいという声もあり、来年度は、設置場所を広げていきたい。

<審査員との質疑応答>

室地委員：役所が行くと難しいが、民間ならできる良い例であると思う。利用の実情は把握されているか。
 回答：ベンチに実際に座っていらっしゃる所を、写真に収めることは難しい。しかし、利用されている所を見かけることは、よくある。
 仲倉委員：「まちの駅」のような発想で、ベンチがあつてお茶も飲

めるというような場所もあればいいと思う。

関委員：昨日現地を拝見したが、花を飾ったベンチが違和感無く置いてあり、とても良い雰囲気であった。小さなお子さんを連れのお母さんが利用されるように、動物の絵や花のイラストを入れるなど親しみやすさをもう少し加えてもらえればと思う。
 回答：お子さんがベンチに座りたいと思うような絵を入れることを考えたい。
 饗庭副委員長：今後の活動の方向性は、二つ考えられる。一つは、あらゆる場所にベンチを置いていく。もう一つは、今置いてあるベンチの周りをどう工夫していくかということがあると思う。



学園版ボランティアスポットの発足

大泉学園まちづくりネット(O・M・N)

<活動報告>

- 9月に「ショップ学園通り」をオープンし、週3回活動している。それに第二土曜と第三火曜を加え、最近では月15~16日まで営業日を増やしてきている。また、模擬店、土曜広場、絵画展およびペーパークラフト作りや囲碁教室などのイベントを開催した。
- 成果としては、商品が売れ始め、結果としてここで働いている障害者の工賃が増えてきている。また、買い物はしなくて見に来るだけの人もいるが、確実に来場者は増えている。
- 19年度には、障害者団体のみを対象とせず、介護予防課の配食サービス「食のほっとサロン」も実施するとともに、子育て支援の分野にも活動の幅を広げていければと考えている。

<審査員との質疑応答>

中野委員長：商店街の人たちとのコミュニケーションのとり方や多くの人を呼び込むための広報活動について、お聞きしたい。
 回答：商店街の中にお店があるため、店主が気軽に声をかけて

くれるなど、日常的に交流がある。また、月一回の商店街の会議にも出席している。広報に関しては、周りの商店は週6日営業しているため、商店は開いているが、ショップは閉まっているということが無いよう営業時間を拡大していくことがPRにつながると思う。

関委員：地道に少しずつステップアップしていると感じた。今後の課題として、中心になって動く人材の育成ということについて何か計画がありますか。
 回答：大泉学園まちづくりネット自体の活動の幅を広げ、実際に動ける人を育てていきたい。



まちなか「ほっとベンチ」設置

おとり様商店会ひと休み研究会

<活動報告>

- おとり様商店会の各店舗のほか、大鳥神社にもベンチを置かせてもらっている。ベンチが輸入品のため納品に時間がかかり、11月の西の市にはサンプルの1台だけしか置けなかった。今年1月下旬に各商店に配置し、日替わりで入れ替えもできるようにしている。
- 練馬子ども家庭支援センターに来ているお子さんに塗り絵をしてもらい、その絵をベンチカバーのイラストに入れている。

<審査員との質疑応答>

関委員：ベンチのイラストが明るい絵であり、木製なのも感じが良い。道が狭いので、ベンチの設置が大変だったのではないのでしょうか。
 回答：道路幅は現在4mであるが、地区計画により建替えの際、容積率のアップを認めてもらう代わりに、壁面を1m後退させて幅員を広げていくことになっており、時間はかかるが設置スペースは広がっていく予定である。また、隣接する他の商店会と連携することにより、面的に広げていくことを考えている。

中野委員長：ベンチカバー作成が、まちの中で良い役割を果たしていると感じた。地域の方と一緒に何かを作り出していくという点で、今後計画していることはありますか。

回答：商店会メンバーに小学校のPTA会長もいるので、小学生にベンチカバーのイラストを書いてもらうことも検討している。
 仲倉委員：イラストの絵をコンクールのような形で広く募集したらどうか。
 回答：ベンチカバーの絵について商店会でいろいろ検討したが、実際にどれくらいの数の絵をカバーにあてられるか検討がつかなかった。そのため、初年度は可能な範囲で実施した。次年度はもっと対象を広げることを検討していきたい。

